



18th

MORNING KC

KOBANSHA

へうげモノ

Hyouge Mono YOSHIMIRO YAMADA

Orphe Furuta Ryōtarō Tokugawa
Kiyomasa Kato Nagayasu Okukubo
Yūjirō Tokugawa



金箔尽くして
暮らせるも……

茶々様や
秀頼様が



血へども
吐あ……

全ては我らが
土砂にまみれ……



時には 坑内に
流れ込む水に溺れ
成し得たもの……

大御所様が誰なら
街道を往来できるらむ



この長安(ながやす)が裁量で
叶えたものに
ござります

第百八十七席

未来世紀JAPAN

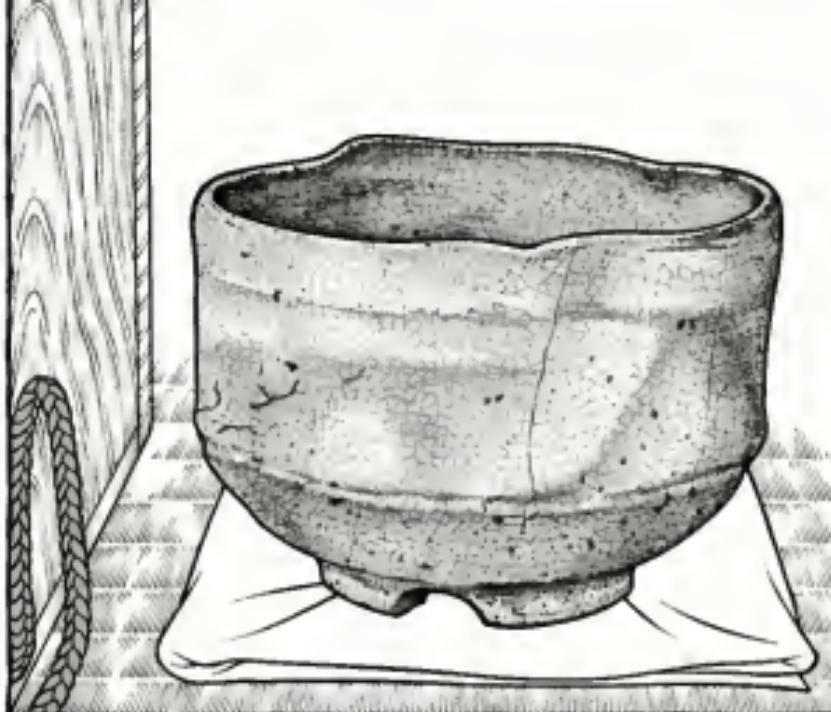




















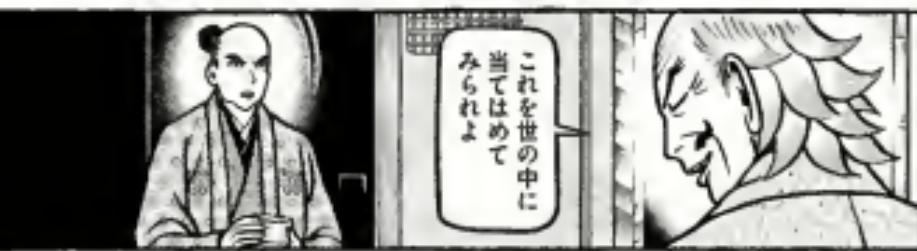


立場は変われど
互いに意が通す

通するほどに
一笑も生まれ
和むのだ

客が亭主
ゆえ……
になる

茶の湯では
亭主が客に……

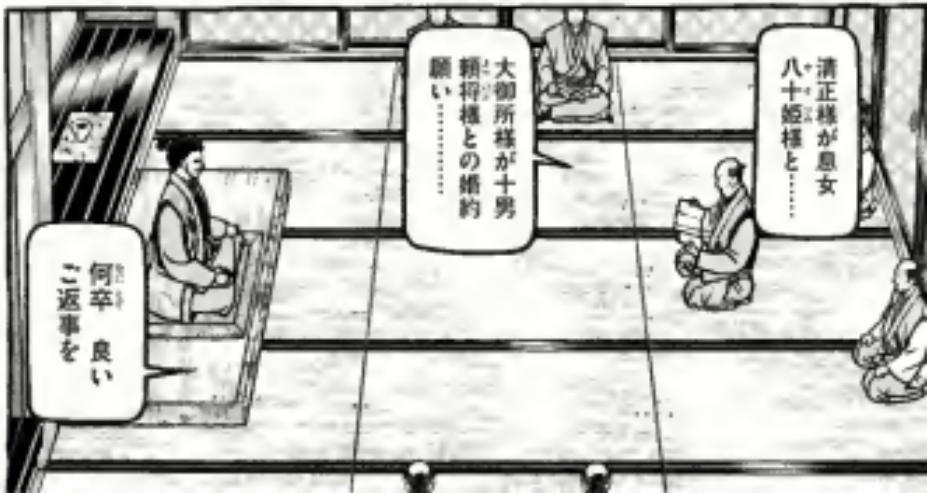


様々な民が
政を行う立場に
なるもよい





同年2月
熊本城
肥後国
熊本市中央区





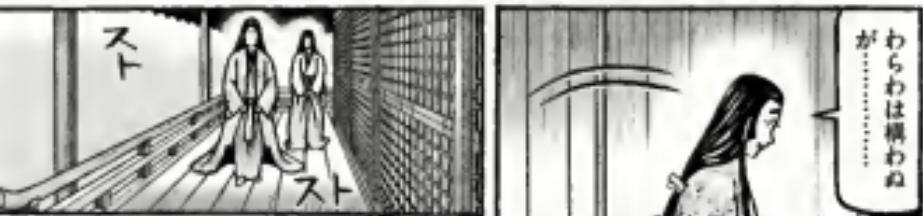






二一
609年4月
京

禁中女御御殿
京都市上京区





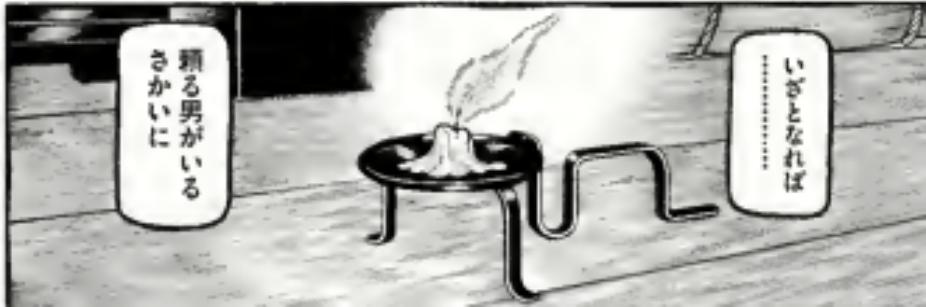
第八十八席

Adam et Eve

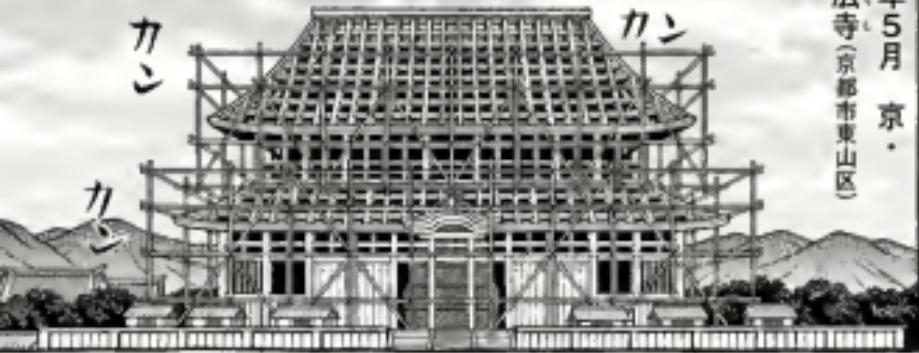








同年5月 京・
方廣寺(京都市東山区)

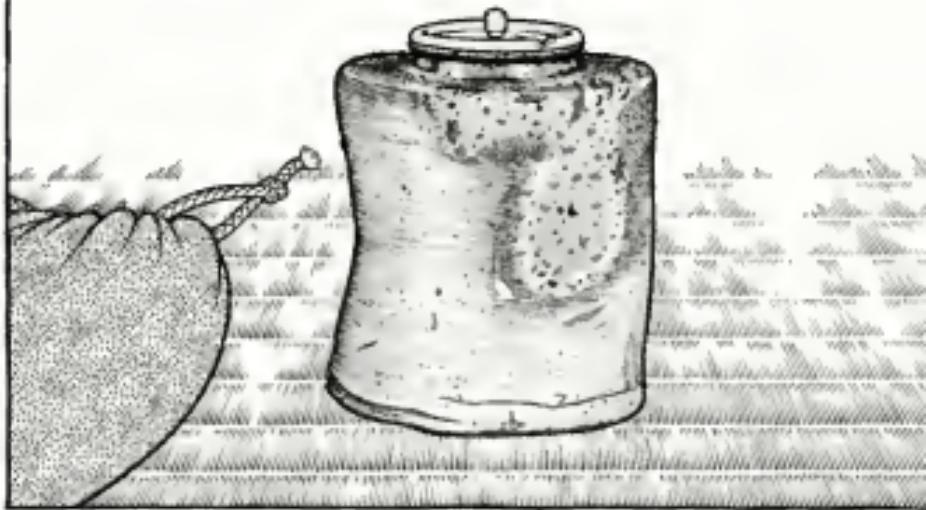












駿府へ赴き
「有来」の姓を賜り
ましたので……

大御所様の威光と
攝部助様の良評にて
高々売れるかと

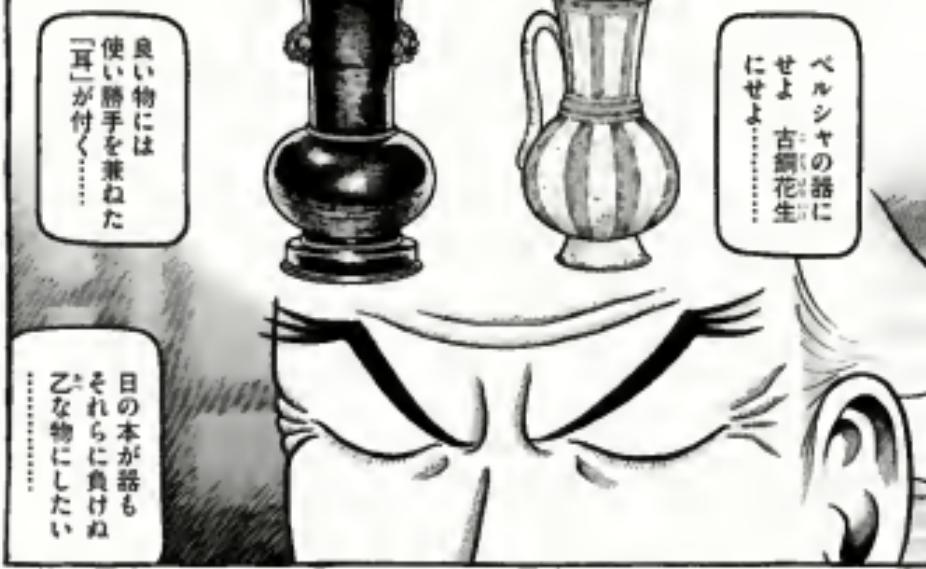
このザラツとした
赤茶けた傷前の土も
良い……

これからは
唐物の茶入に
頼らずに済むわい

大御所様の威光
は余計だがのう

これに「耳」を
付けてくれね
かえ?

して 次は







西国大名の献金
まで暴かれて
しまうやも……!!











1609年7月
かわせきくわ
皮持組屋敷(京都市北区)
名外



パカラッ





第八十九席

La Dolce Vita













幕府とて
防がねばならぬ

内々の儀に介入し
我らが規律に従う
て頂く

公衆衆の悪ぐるいが
下々へ伝播するを







西国大名の
献上金や

今度の件の
取り調べで
ばれへんとも
限らん……

今は洛外の大原に
隠しておるんやが
…………

御所近くに屋敷を
建てはるんやろ?

はい

一つ頼まれと
くれやす
古田はん

おそらく大御所様は
禁中の目付けとして
それがしを……

以前の聚楽第屋敷より
広い
堀川の敷地に

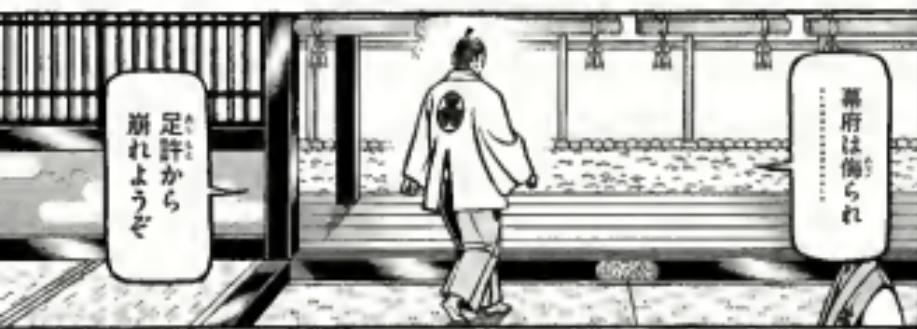


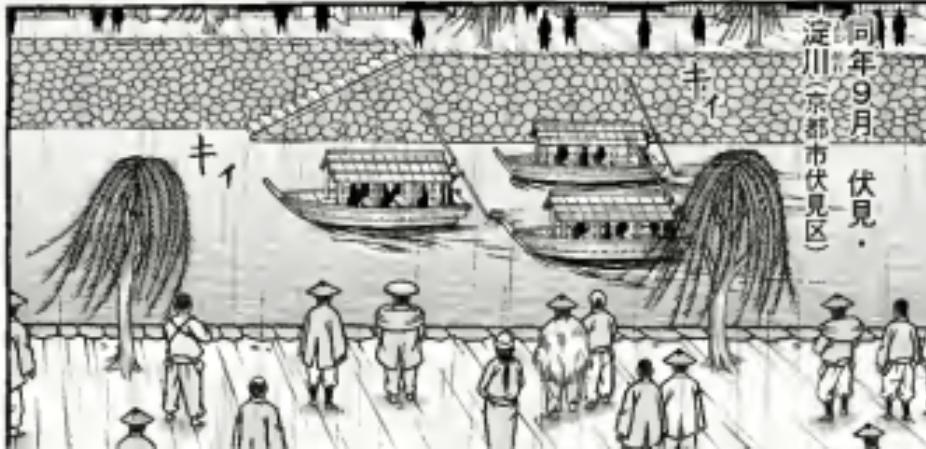


同月
(東京都千代田区)
江戸城本丸













1
6
0
9
年
9
月
上善寺
(京都市北区)

京





第百九十席

DESIRE -劣情-

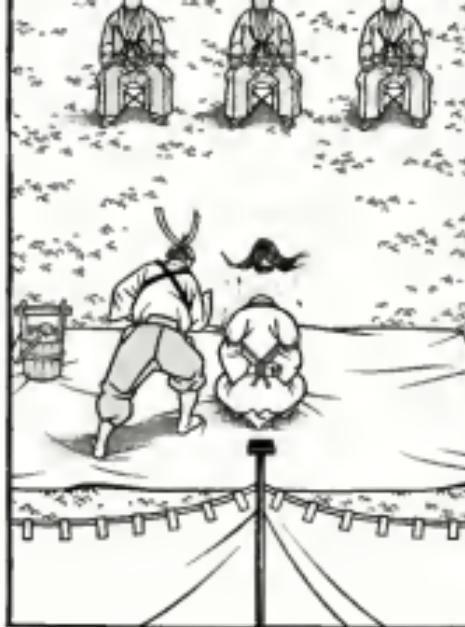
幕府も一枚岩や
ないようやのう

グダグダしとる内
に 帝が発言せな
ええけど

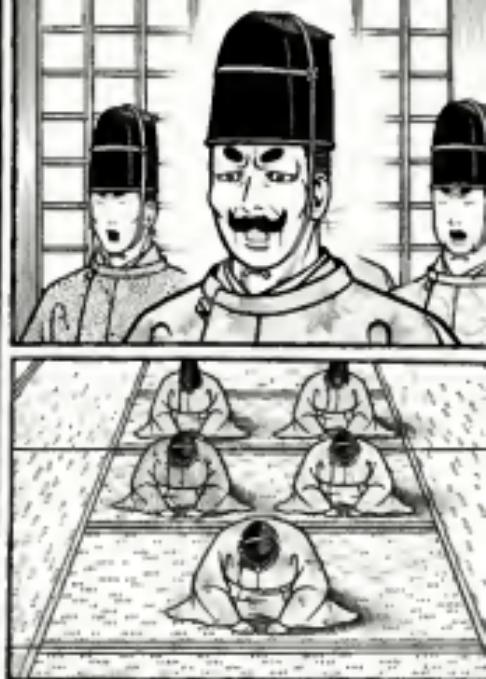
あの世で見せて
もらいますわ

風雅も貧もない
世が いつまで
続くかを.....

日の本の民が
いつまで我慢
できるかを















同月
（東京都千代田区）
江戸城本丸御殿











お静と申した
か……

して……

その方に免じ
地位を免す……

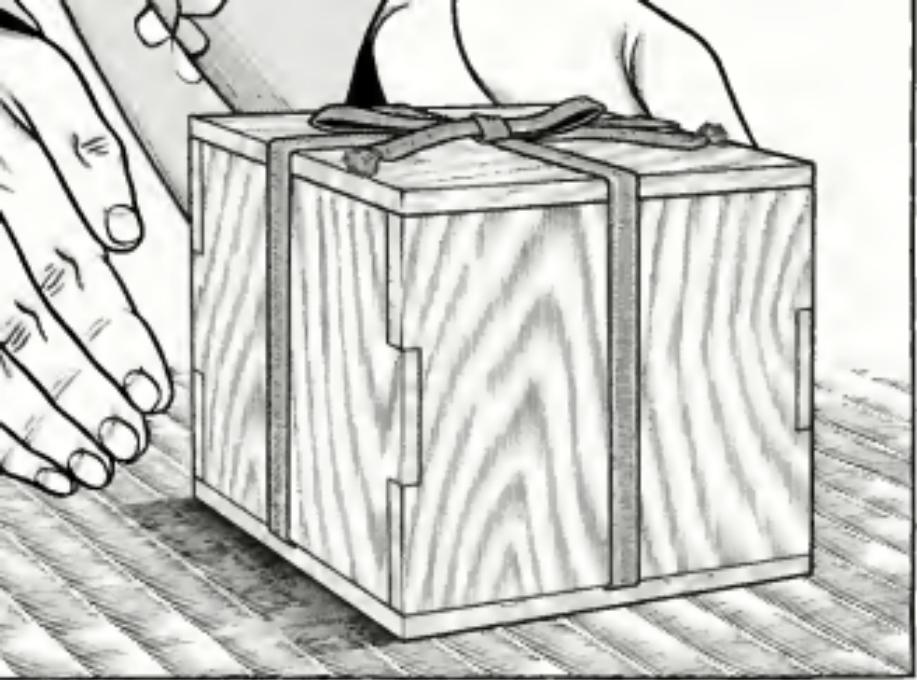


床を敷け

同年12月
京
三条
京都市中京区

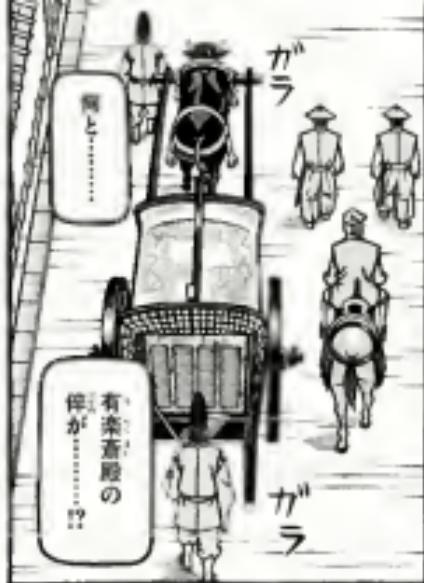
細川幽斎屋敷











1610年1月 太坂
織田有楽斎屋敷(大阪市北区)



猪熊らの逃亡を
助けたのか?

して……



上手うなつた
のう
吉門……

江戸にて上様に
茶を献じただけの
ことはある……





第百九十一席

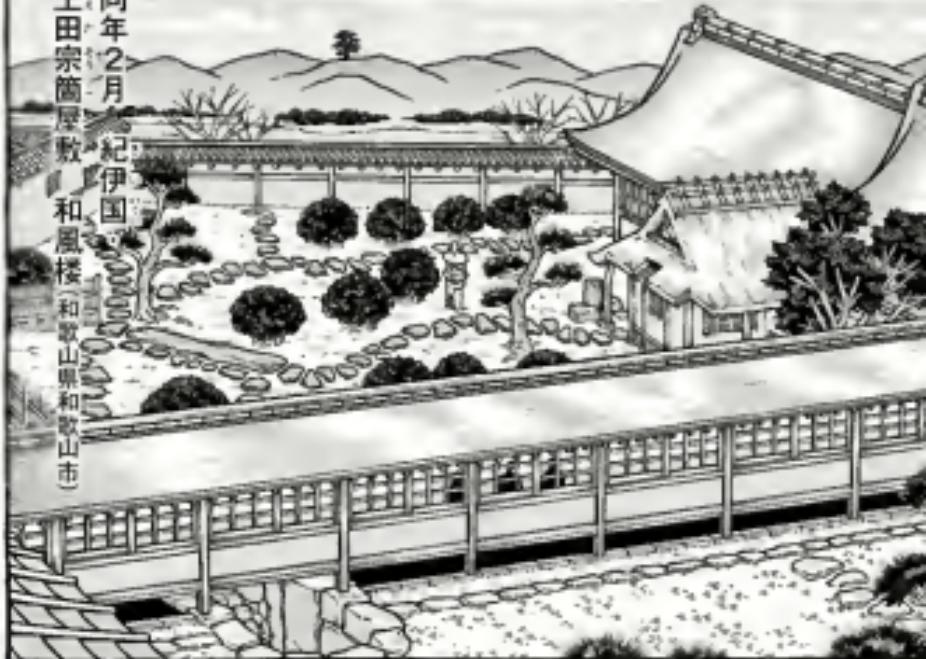
夏の十字砲火







同年2月
上田宗簡屋敷
紀伊国
和風楼
(和歌山県和歌山市)



遠くに見える
大松がまた熱嘔
で……

良い薬界を述べて
られましたな
上田殿……



「のどかな春風
の吹く場」……
とでも

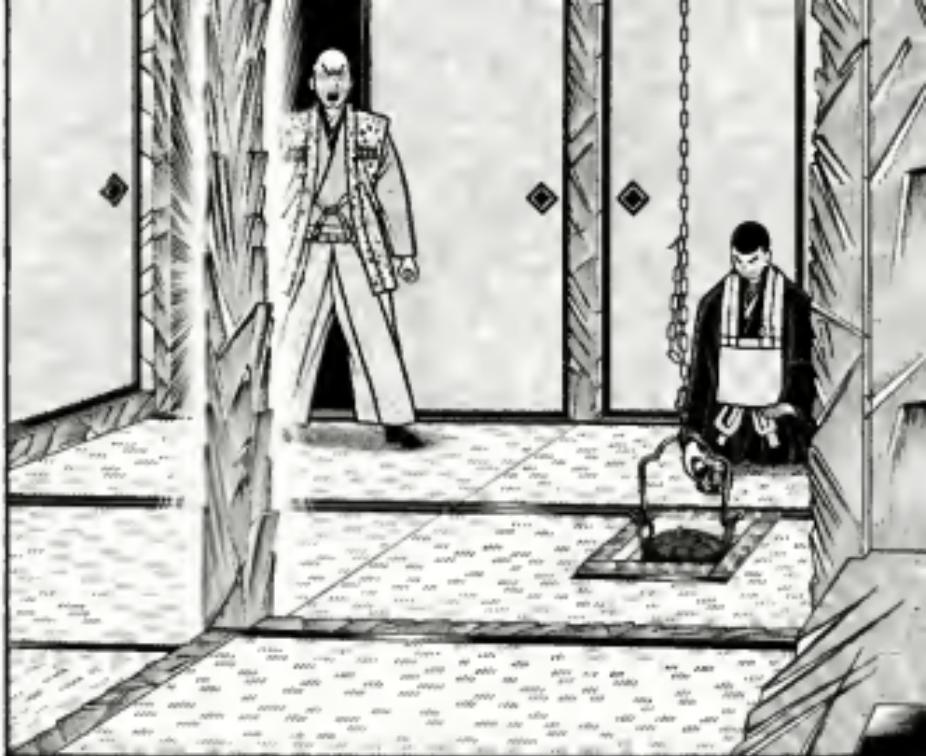
額にある
「和風樓」の意
とは?

一本毛が生えて
おれば面白いと
植えてみました

あの恩城様は
元山ゆえ……

















同年閏2月

京・堀川

古田織部助屋敷(京都市中京区)



カシ
カン

やはり大殿



それも
入れてみよ

私は伏見の酒や
茶葉の鑑定板益も
ある

地下に腰湯や
金子の隠し蔵をも
造るとなると……



茶器の目利き益を
入れても無理です

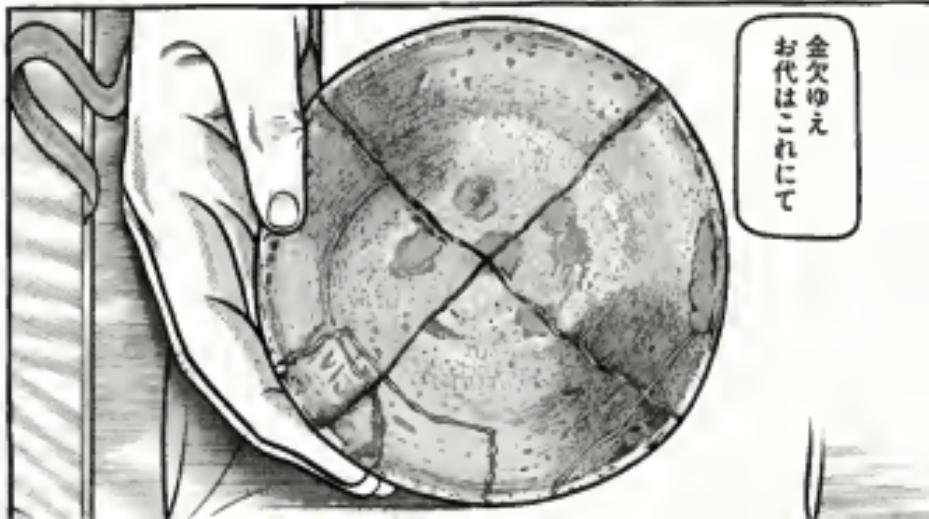
費用が元手を
超えてしまい
ますれば……















1610年閏3月

駿府城(静岡市葵区)

駿河国

皆も知つての
通り……



巨大な城下町を
築かん

よつて 満洲の町
こゝに移
古野へ移し

洲城を東海の
拠点とするには
小さく……

水害も多い

抜かり無き
よう

全ては日の本が
泰平のためぞ

今度は西国の
貴公らにお願い
致す

東国の諸将には
江戸の普請で苦労
させたゆえ……

Bloody Christmas



駿府・池田輝政屋敷
(静岡市葵区)

まったく今は
出費が多過ぎる
わ……

我々は丹波の番間
にも課役されておる
のに

ゆえに那古野は
免除されると
思うでござったが

左様……

のう
浅野殿

献上金は大事
ですぞ……

いやいや
福島殿

かような事なら
禁中へ金子を貢ぐで
なかつた……





その方は
大御所様の娘婿
であろう!!!

我らの課役を免除
するよう計らえぬ
のか.....!!!

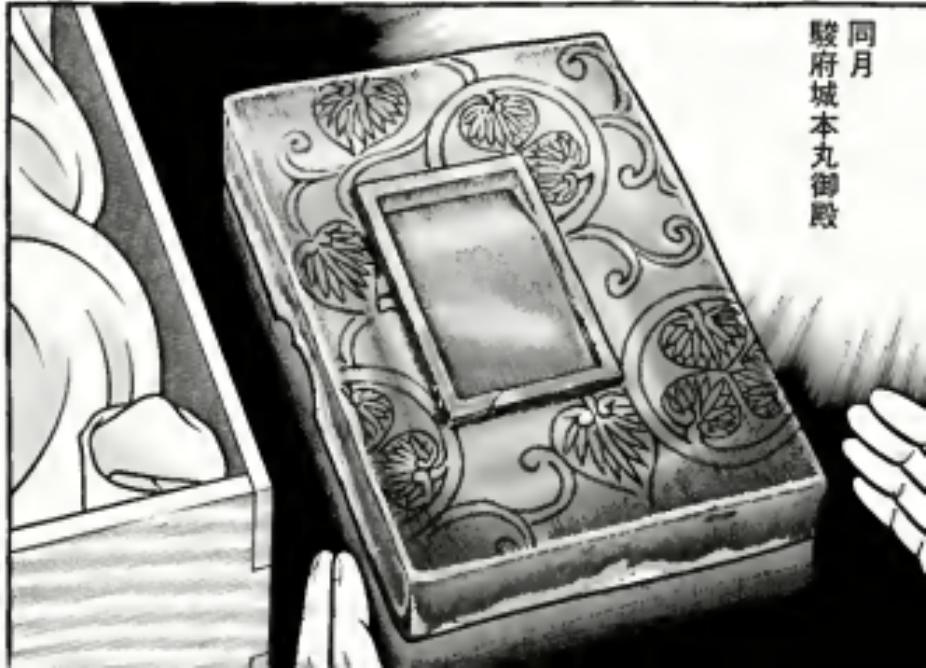
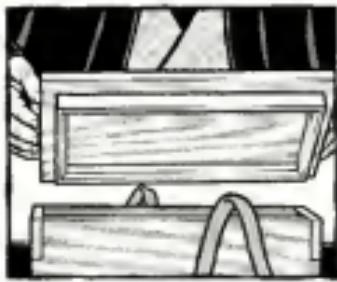




その内 大御所様は
我らを責める材が
のうなり……





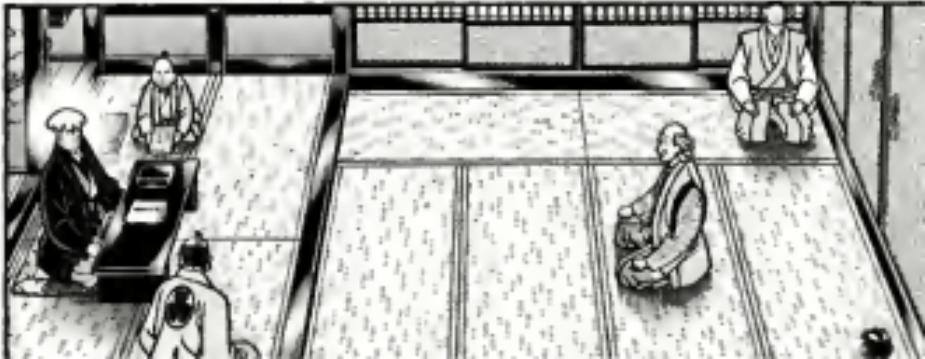


同月
駿府城本丸御殿















同年3月 駿府城下
大久保長安屋敷(静岡市葵区)



水面下では
動いてござる

大坂城や
東の雄伊達様
にし……

幕府を通さず
イスバードと
繋がるよう
佐しくぶり申り

心しろ心配は
あなたの方……

占領を急ぐと
いう事は……

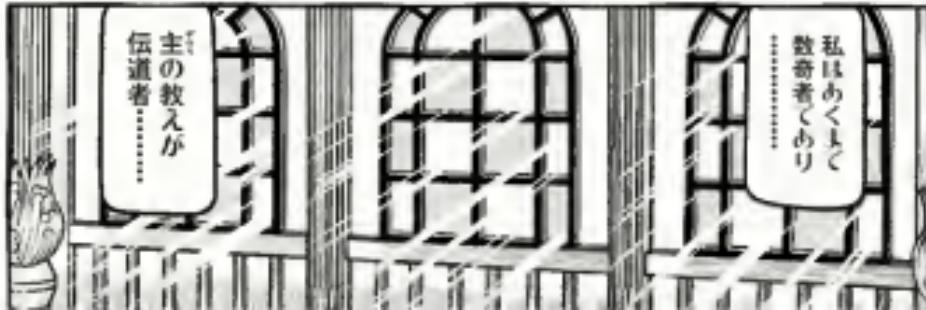
金の交換先を
選び直されば
ならぬく

団星なら……

海の向こうで
新故国の風下に
立たされておるので
ありますまいな？

こ……そんな
事はない！

高山殿の方は
動いているのか







1610年4月 京
禁中小御所(京都・市上京区)



承服致し
かねます

禁中をこれ程
見下した返答も
ありません



第百九十三席

本気でちょっとちゅね





同年5月
愛知県清須市
尾張国・清洲城

瓦や木曾檜の柱も
丁重に那古野へ
運ぶのだ!!

ガラ

ガラ

ガラ

カラッ

それらはかつて
この福島が修業に
要した逸品!!

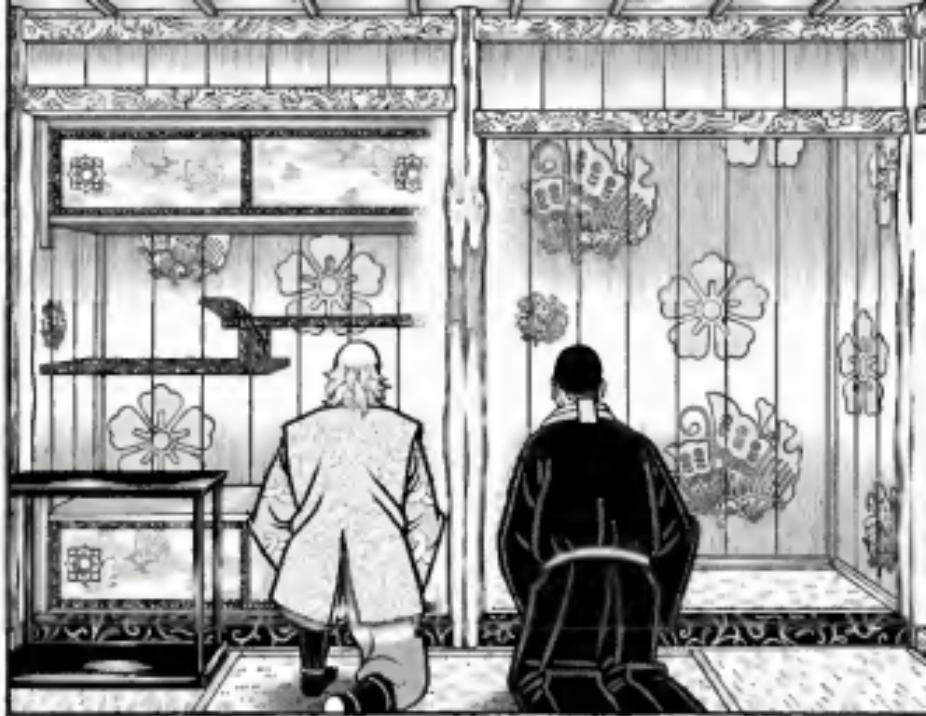


!!

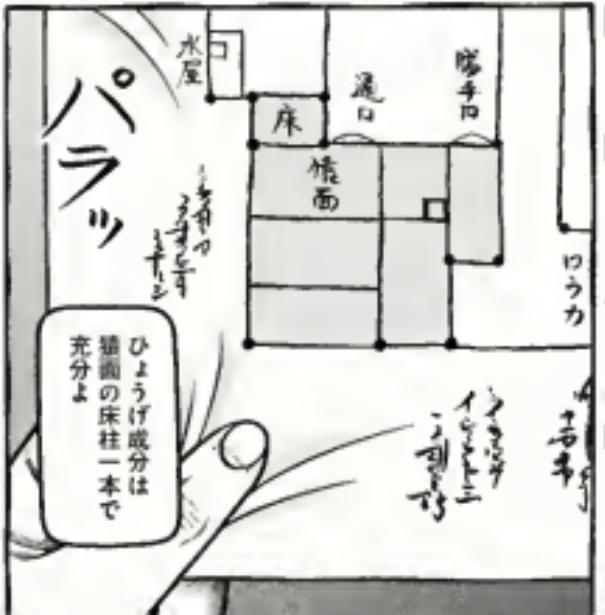
割れでもしたら
ただではおかぬぞ

猿面の床柱

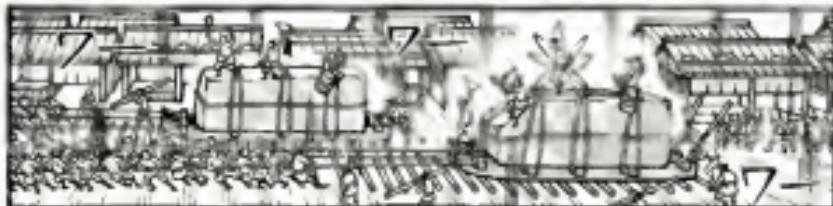
これが在りし日の
信長様が愛でた











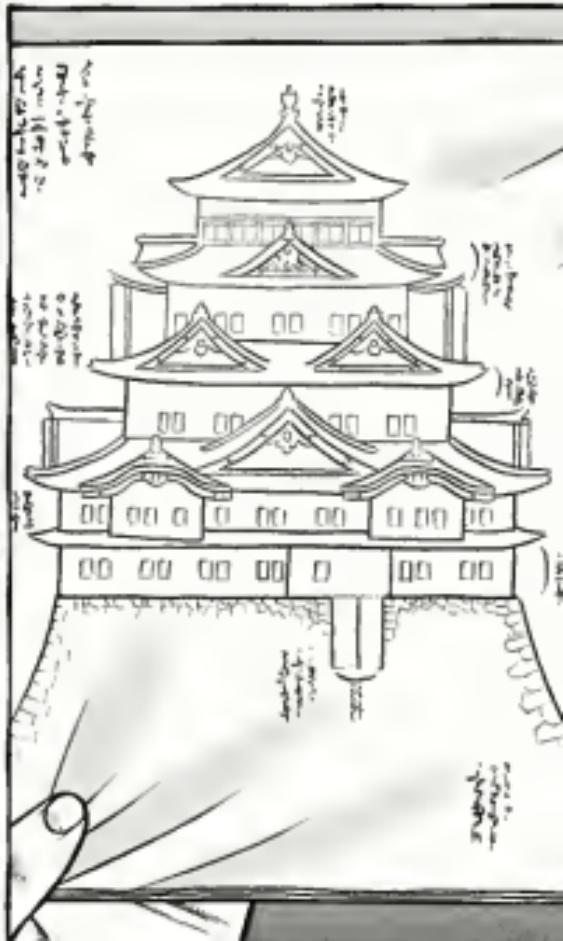




今は無理ね







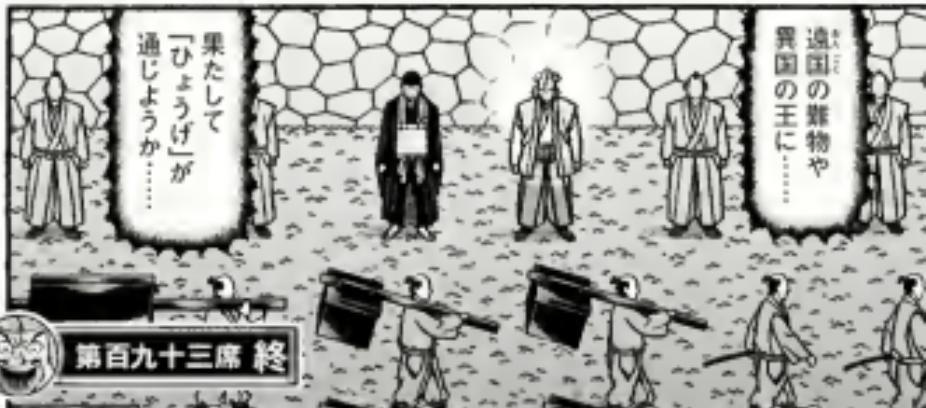






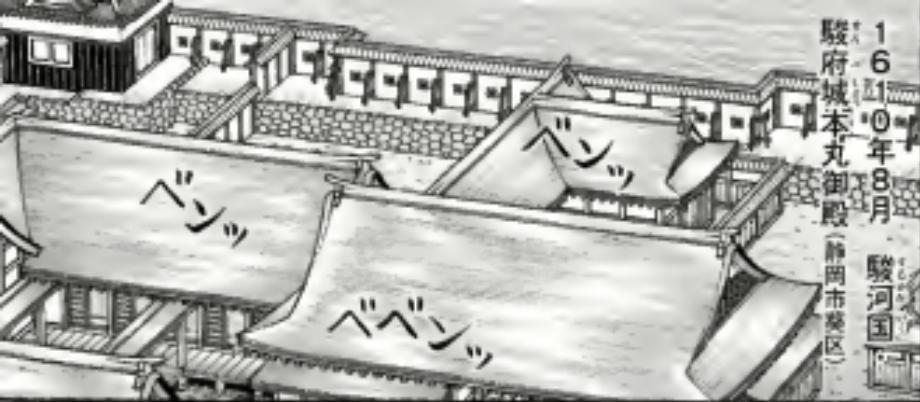






第百九十三席 終

1
6
1
0年8月
駿府城本丸御殿(静岡市葵区)
駿河国



豪「レ」と「ラ」を抜いた「ドミファソシト」の音階





第百九十四席

沖縄 Bay Blues































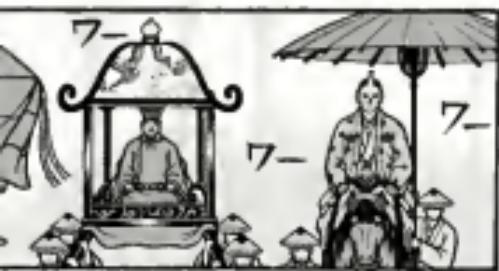






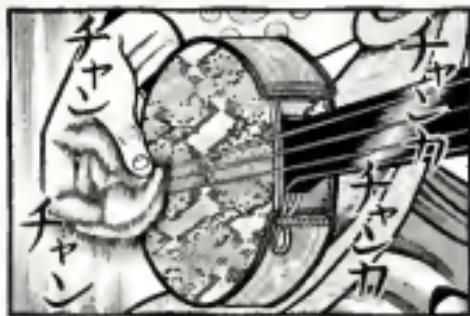
第一百九十四席 終

1610年8月
日本橋(東京都中央区)
江戸



PLEASE, PLEASE, PLEASE!





サスッ

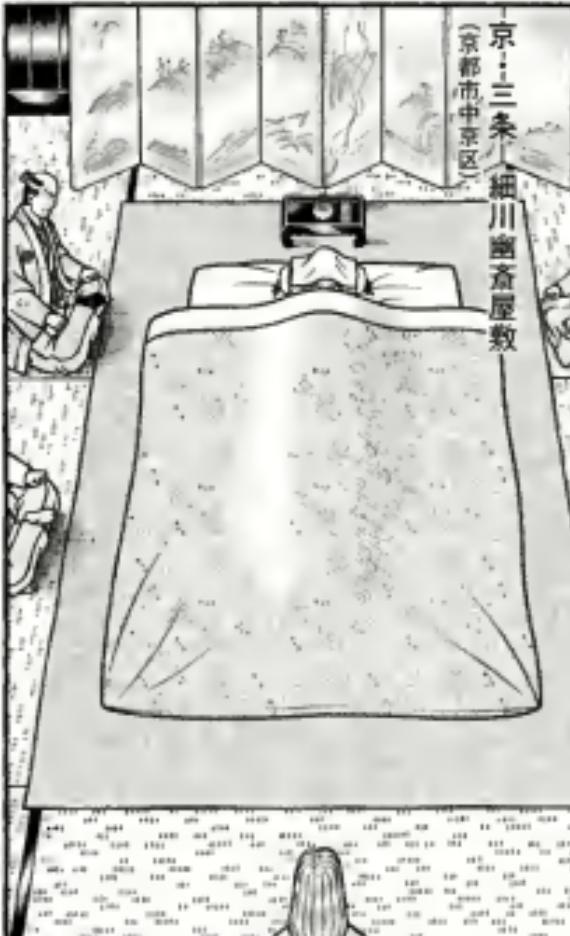


宗匠!!!

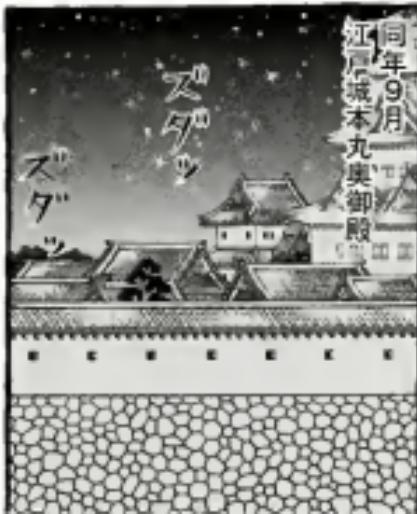




















同月 江戸城西の丸
山里茶亭













1569年
足利二条城(京都市上京区)
京

いいか
左介エ

我が家臣と
相津の者を縁組
させん

織田の相津支配を
確かなものと
すべく……





必ずや!!

第百九十六席

お嫁においてYO

攝津國 次木城内
中川清秀屋敷(大阪府茨木市)





上方の武人は
ぬるうで
いませぬ

數奇事に現を
抜かしておれば
國亂れるは必定

さりとて貴殿の
父上は……

茶の湯にも
通じた數奇者
でしよう？

御意に

されば 茶道具の
一つも持つて
おらぬ……と？

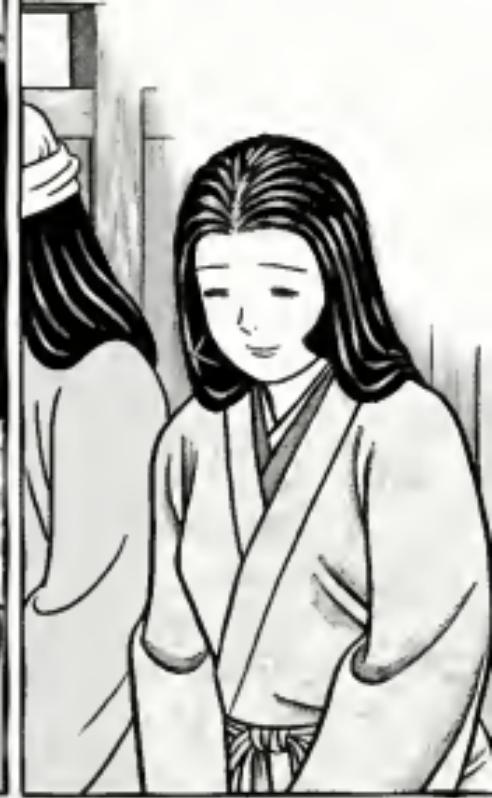
父の茶を点てる権を
見ては 嫉えており
申す

器など買うなら
名刀を譲えた方
が ようござる















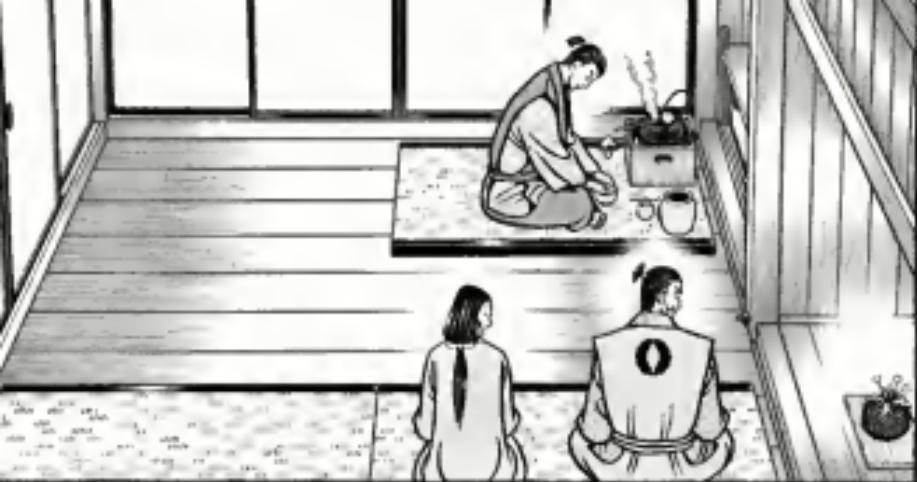
摂津国
高山屋敷
（大阪府高槻市）

吉田様をお招き
した折まであった
のですが……

確か道具の
片付けを手伝うと
ここへお入りなさ
れ……

私の「^お部屋を
どうへやつた?



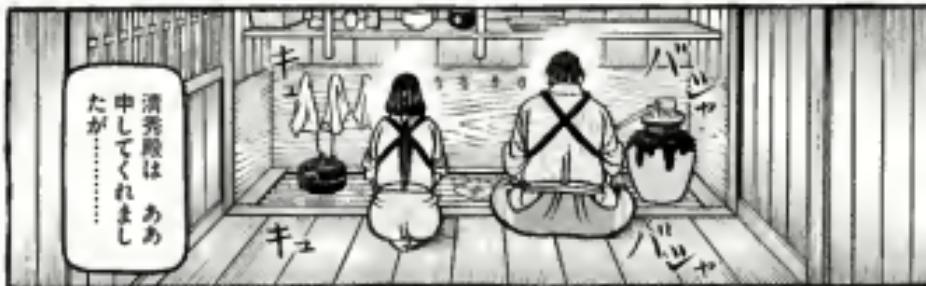
















古田織部助屋敷
千代田区丸の内
江戸
明治10年10月16日

毎度の登城
お疲れにござい
ます 父上



我が老・金時も
久々に目を
覚ましたわい

青々とした
南方らしさに
……



第百九十七席

安泰とロープ













太閤様の抱きたい
情熱に抱かれたの
でしょう

きっと坊上は

その然あればこそ
太閤様は上手に
抱れたのでは……

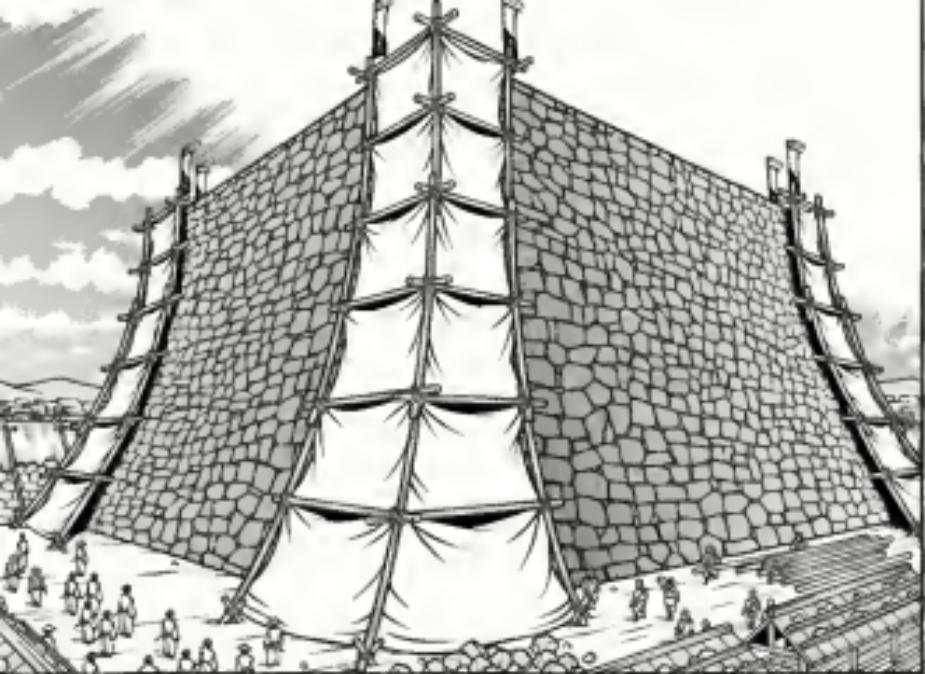
御休み
なさいませ

頂いて
おきます

私の機縁を
取り締もうとなれる
御気持ちだけは……









そこまで
仰るなら……

















第十八服終